兵肢協会報

発　行　所
〒651-0062
神戸市中央区坂口通2丁目1－1
兵庫県福祉センター内
兵庫県肢体不自由児者協会
ＴＥＬ 078-241-9907
ＦＡＸ 078-241-9908
E-mail:hyoshikyo@nifty.com
URL:http://hyoshikyo.d.dooo.jp

惜別（故司馬良一先生を偲んで）

一般財団法人
兵庫県肢体不自由児者協会　理事長
鄭　正　秀

さる令和3年8月29日、本会の副理事長で会の為に多方面に亘ってご尽力くださいました司馬良一先生が亡くなられました。まさに痛恨の極みであります。思い起こしますと、その約1ヶ月前の7月10日に姫路で開催されました本会の療育相談に司馬先生もお見えになっておられました。その時は普段と変わらずお元気そうで熱心に業務に取り組んでおられました。そして私と雑談を交わしたり、一緒に昼食を取ったりしました。まさかその時が司馬先生との最後の出会いになるとは今でも信じられません。

私が司馬先生とお付き合いを始めたのは昭和38年です。私が大学に入学した年であり、司馬先生が大学の3年先輩でありましたことからその後も長きに亘って親しくさせて頂きました。司馬先生は勤勉実直なご性格で曲がった事は極端に嫌い、何事もご自分が納得いくまで徹底的に追及するという誠実な方でいらっしゃいました。大学卒業後は神戸大学整形外科教室に入局されました。医局では故柏木大治教授をはじめ医局員からの信頼も厚く、大学病院中央手術部副部長を始め、のじぎく療育センター院長、兵庫県立リハビリテーション中央病院院長等の重責を果たされました。そしてご多忙な職務の傍ら後進の指導、育成を忘れることはありませんでした。今では司馬先生のご薫陶を受けた数多くのドクターが第一線で活躍されていることは言うまでもありません。

このように司馬先生はドクターとして有能な方でいらっしゃいましたが、同時に多彩なご趣味を通して人間として幅広い見識と温かい真心をお持ちでいらっしゃいました。とくに療育相談等、本会の行事で障害のある方々に接する時にはその方々の気持ちになって温かくじっくりと時間をかけてお互いに納得いくまで対応されていたのが印象的です。

このように医療、福祉にご多忙な司馬先生でしたが、時間をみてはご自分のご趣味で更にご自分の人格に磨きをかけていらっしゃいました。とくに音楽にかけては造詣が深く、ご自分でもチェロを奏でていらっしゃいました。学生時代に司馬先生がチェロ部門を担当されてベートーベンのピアノ三重奏曲「大公」を私の自宅で演奏してくださいましたことは今でも鮮明に記憶しております。また、面白いエピソードがあります。これも学生時代のことですが、ある会合があり、終了してから私が車を運転して司馬先生をご自宅にお送りすることになりました。まさに先生のご自宅に近くなった時に車のラジオからベートーベンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」が聴こえてきました。すると先生は「鄭君、こんな曲が聴こえてきたのに車から降りる訳にいかない。終わるまで車を走らせましょう。」と言われ、先生のご自宅が見えているのにもかかわらず、それから車をまた二、三十分走らせたのを記憶しています。

さらに先生は各方面で合唱団を指導、指揮されていましたし、障害者施設では積極的に音楽会を企画運営して障害者の毎日の生活を充実させ、明るい雰囲気をかもし出すことも忘れませんでした。先生はスポーツでも万能でとくにドクターになられてからはゴルフに力を注がれ、その腕前はなかなかでホールインワンの経験もお有りのようです。

このようにドクターとして、そして人間として立派な司馬先生ですが本会には平成20年から副理事長に就任して頂きました。ご就任後は常に本会の運営に積極的に関与され、また本会の発展に常に心を砕いておられました。私にはいつも的確なるアドバイスをくださり、時には厳しいお言葉を頂いたこともあります。司馬先生亡き今、私たちは先生の尊いご意思を引き継いで本会の発展のために努力しなければならないと思っております。皆様の更なるご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、とても心残りではありますが、故司馬良一先生のご冥福を心からお祈りして筆を置かせていただきます。

合掌

肢体不自由児者協会は

肢体不自由児者の愛護思想の普及、療育等に関し必要な事業を行い、肢体不自由児者の福祉の増進を図ることを目的とし、そのために、

一　肢体不自由児者の愛護思想の普及
二　肢体不自由児者の療育相談及び更生相談
三　肢体不自由児者の教育の援護
四　肢体不自由児者の激励慰安
五　肢体不自由児者に関する刊行物等の発行及び斡旋
六　肢体不自由児者の福祉に関する調査及び研究
七　日本肢体不自由児協会及び関係諸団体との連絡

などを行っています。